

政策 C2 豊かな心を育む、学びと文化、交流のまちづくり

【文化・スポーツ・交流】

<現状と課題>

だれもがこころ豊かに、健康でいきいきと地域で暮らしていくためには、多様な文化・スポーツ、学習活動等を通して自己実現や地域づくりにつなげていくことが必要です。2021（令和3）年度からの第4次生涯学習推進計画の策定にあたっては、学習機会の充実、情報提供、文化・スポーツ活動等を通じ、生きがいづくりや健康増進と合わせ、市民の社会参加を支援し、地域課題の解決につながる人材の養成や地域づくりを見据えた計画としていく必要があります。また、2020（令和2）年には東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、多摩市も都内最長の自転車競技ロードレースコース（11.8km）の舞台となります。この機会を未来の多摩市のまちづくりにしっかりと活かしていく必要があります。

文化・スポーツの分野においては、現在、市民文化・芸術活動の拠点であるパルテノン多摩の大規模改修工事やスポーツ推進計画の策定に取り組んでいるところですが、文化・スポーツの捉え方や取り巻く環境は大きく変化しています。多摩市文化団体連合や多摩市体育協会、施設の指定管理者、教育委員会、近隣大学・企業等と連携を図りながら、全市域で「多摩市の文化・スポーツ」についての理解を広め、老若男女、障がいの有無を問わず、体力づくり・健康づくり、文化活動への参加を促進していくとともに、これまで以上に文化・スポーツ活動を通じた社会参加、地域づくりの推進が求められています。

社会はグローバル化、人口減少、労働力不足など様々な背景のもとで変化しています。こうした社会の変化に対応したまちづくりを進めていくためには、世代や地域、国籍等を超えた多様な交流・連携が求められており、友好都市及び近隣市との交流、異世代が参加・活動できるような取組とともに、多文化共生社会の実現に向けた取組を進める必要があります。

さらに、まちの歴史と文化の継承、多様な文化芸術活動の機会の提供や支援などを通して、「ふるさと多摩」への愛着と誇り（シビックプライド）を醸成し、豊かな地域社会づくりと新たな地域文化の創出に取り組んでいく必要があります。

施策 C2-1

誰もがいきいきと学び、活動する環境づくり

1 施策の目指す姿

こころ豊かな暮らしを送るために、市民は、整備された環境のもとで、文化・スポーツ、学習活動を気軽に楽しんでいます。

2 施策の成果指標・目標値

指標名	現状値	目標値	目標値
	2017(平成29)年度	2022(令和4)年度	2028(令和10)年度
①市民文化祭の参加団体数・参加者数	37 団体	37 団体	38 団体
	2,062 人	2,100 人	2,500 人
②週1回以上スポーツをした人の割合 (体操やウォーキング等を含む)	53.0%	66.0%	70.0%
③図書館利用者カード登録数	78,968 人	87,000 人 (現状値比 約10%増)	103,000 人 (現状値比 約30%増)
④快汗スポーツDAYの参加者数	4,249 人	4,800 人	5,300 人

【出典：①文化・市民協働課 ②多摩市政世論調査 ③多摩市の図書館（図書館事業報告） ④スポーツ振興課】



子どもサッカー体験教室



公民館で開催されている学級・講座の様子

3 主な施策の方向性と今後4年間の重点的な取組

(1) 多様な文化、スポーツ、学習活動の環境整備

① 多様な活動を支える環境整備

- 市民一人ひとりの課題解決、多様な学びを支援するため、豊富な資料・情報を揃えた、図書館ネットワーク全体を支える中央図書館を整備し、図書館サービスの充実を図ります。
- 市内の図書館、公民館、パルテノン多摩、地域の大学や市民団体等と連携し、市民のだれもが学びの情報や資料を取得できる環境を整備します。
- 市民が文化、スポーツ活動を継続できるよう、旧北貝取小学校跡地施設の整備等、関連施設の環境整備を進めます。

② 市民活動を支えるための連携強化

- 文化団体連合、体育協会等の団体との連携を強化し、文化、スポーツ等の交流活動の輪を広げます。
- 大学や事業者等との連携により、文化・スポーツ、学習活動等の市民活動の場の確保・提供に努めます。

(2) 多様な学びや活動のニーズに応える機会提供

① 文化、スポーツ、学習活動の振興と機会提供

- 市民が文化、スポーツ、学習活動に参加しやすくするために、情報提供や講座等を通じて学びの場を提供します。また、市民が身近に文化、スポーツ、学習活動に接することができるよう民間企業等との連携を推進します。
- 幅広い世代が気軽に参加・活動できるイベントの実施や、公民館等で行う学級・講座等、社会教育事業等の充実を図ります。
- 地域を豊かにするための人づくりの実現を目指し、健幸まちづくりや市民の社会参加の支援を視野に入れた生涯学習推進計画を策定します。

② スポーツ活動を通じた健康増進と生きがいづくり（視点1-①）

- 「スポーツ推進計画」を策定し、市民のスポーツ活動を通じた健康増進、生きがいづくりを推進していくとともに、スポーツ推進委員と連携して、地域でのスポーツ活動を支援します。

③ 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの気運醸成とレガシー^{※1}の創出

- 世界レベルの祭典を通して、スポーツに関わり、楽しむ気運の醸成と未来に引き継ぐレガシーの創出に取り組みます。

4 施策の実現に向けて市民は・・・

- 生涯を通じて文化・スポーツ活動を楽しみます。
- 様々な活動団体等が、市民向けの講座を開講します。
- 事業者は活動の場の提供に協力します。
- 市内で行われるスポーツ大会などに積極的にに関わり、スポーツを楽しむ気運を醸成します。

5 関連する主な計画

- ◆ 多摩市生涯学習推進計画
- ◆ 多摩市読書活動振興計画
- ◆ 多摩市子どもの読書活動推進計画
- ◆ 多摩市立図書館本館再整備基本計画
- ◆ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた多摩市の取組方針

※1 レガシー：オリンピック・パラリンピック競技大会等の開催により開催都市や開催国が、長期にわたり継承・享受できる、大会の社会的・経済的・文化的恩恵のこと

施策 C2-2

多様な交流による地域づくり

1 施策の目指す姿

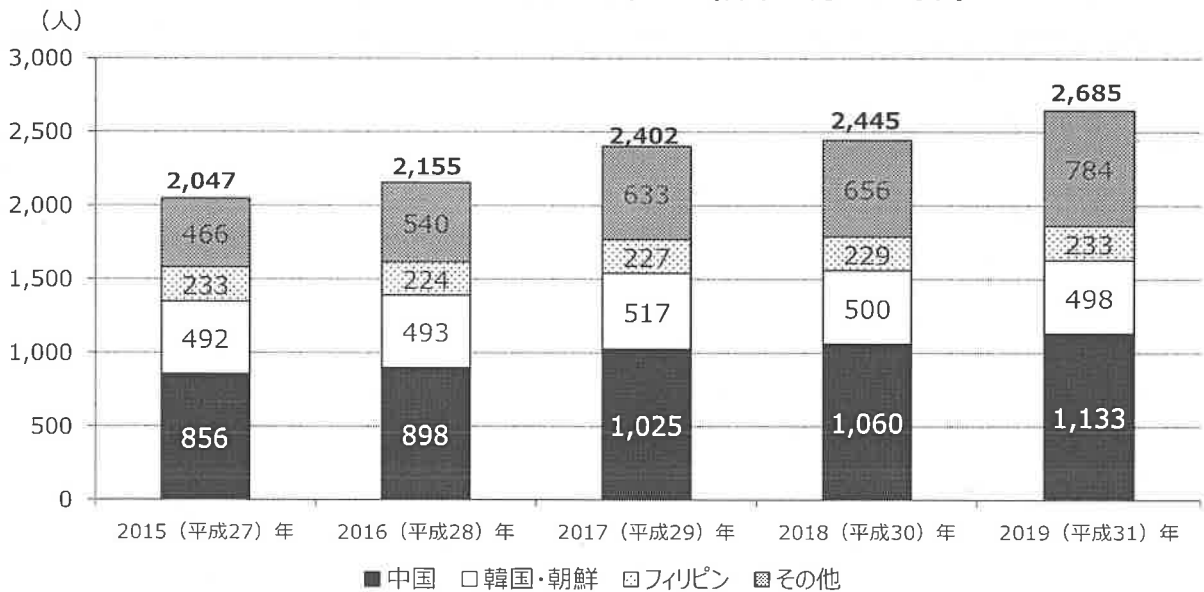
豊かなところを育み、いきいきとしたコミュニティを醸成していくために、世代や地域、国籍等を超えて、お互いを認め尊重し合いながら、多様な交流・連携が行われています。

2 施策の成果指標・目標値

指標名	現状値	目標値	目標値
	2017(平成29)年度	2022(令和4)年度	2028(令和10)年度
①都市交流推進事業の事業数、参加者数	3事業	3事業	3事業
	92人	120人	120人
②コミュニティセンターを中心とした地域内・世代間交流事業の実施数及び参加者数	39事業	42事業	46事業
	39,654人	40,049人	40,450人
③多摩市国際交流センターが実施している外国人向けの日本語教室の参加者数	2,459人	3,200人	3,950人

【出典：①・③文化・市民協働課 ②コミュニティ・生活課】

▶多摩市における外国人住民人口（各年1月1日時点）



出典：市民経済部市民課

3 主な施策の方向性と今後4年間の重点的な取組

(1) 多様な交流によるコミュニティの醸成

① 多文化共生^{※1}の取組の推進（視点3-⑤）

- 多文化共生社会の実現を目指し、多摩市国際交流センター^{※2}と連携して、日本語教室の開催、生活情報誌の発行、生活相談の実施等の外国人生活支援事業や、在住外国人・来訪者への外国語でのサインの整備に取り組みます。
- 国際交流・国際理解事業、外国人生活支援事業等に対する支援をはじめ、企業や大学等の多様な主体による市民レベルの国際交流を推進します。

② 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機とした国際交流の推進

- 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催にあたって、選手と市民との交流や参加国と本市との交流を促進するため、事前キャンプ誘致に取り組みます。

③ 地域間の連携・交流の推進

- 文化・スポーツをはじめ、様々な交流事業を通して、近隣市との広域連携や交流をさらに進めるとともに、市民の自発的な交流を支援します。

④ 地域内交流、世代間交流の推進

- コミュニティセンター等の事業や、自治会・町会・管理組合、地域の団体などの主体的な事業を支援し、地域内での交流、世代間での交流をさらに推進します。

4 施策の実現に向けて市民は・・・

- 世代や国籍等を問わず互いを理解し、様々な交流をします。
- 友好都市長野県富士見町ほか、他市との文化・スポーツ活動等を通じた交流を深めます。

5 関連する主な計画

- ◆ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた多摩市の取組方針

※1 多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと

※2 多摩市国際交流センター：非営利の国際交流団体。市民ボランティアが中心となって、外国人のための日本語教室、生活情報誌の発行、生活相談等の外国人支援事業のほか、市民の国際理解推進のために、市民と外国人の交流事業などを行う。

施策
C2-3

文化の継承と創造

1 施策の目指す姿

「ふるさと多摩」への愛着を持って豊かな地域社会づくりを進めるために、まちの歴史と文化を継承するとともに新たな地域文化の創出に向け、多様な市民活動が活発に行われています。

2 施策の成果指標・目標値

指標名	現状値	目標値	目標値
	2017(平成29)年度	2022(令和4)年度	2028(令和10)年度
①教育委員会の文化財所管の行う各種事業数と参加者数	23 事業	24 事業	24 事業
	16,154 人	16,500 人	17,000 人
②教育委員会の文化財所管施設の来館者数	52,226 人	53,000 人	54,000 人
③多摩市文化振興財団が行う市民協働事業とアウトリーチ事業の参加者数	43,541 人	50,000 人	60,000 人

【出典：①・②教育振興課 ③多摩市文化振興財団】

3 主な施策の方向性と今後4年間の重点的な取組

(1) 文化の継承と創造

① 文化・歴史の継承と発展

- 旧北貝取小学校跡地施設を中心に、旧多摩聖蹟記念館、古民家等を活用し、多摩の文化、歴史に関する各種事業を通じて情報を発信します。
- 学校教育と連携し、文化財資料等を活用することにより、次代を担う子どもたちをはじめ、広く市民に伝統文化・地域の歴史に触れる機会を創出し、「ふるさと多摩」の意識を醸成します。

② 新しい文化の創造と発信（視点2-⑤）

- 市民が様々な形で文化・芸術に触れる環境を整えることにより、生きがいや社会参加、ひいては地域の活性化に寄与するように、市民と協働して文化・芸術の振興に取り組みます。
- 未来への投資として、新しい文化の創造を目指す若い世代の活動を積極的に支援します。
- 2009（平成21）年度に策定した「多摩市における文化芸術振興方針」を見直し、多摩市における文化の位置づけを市民と共有し、協働による文化活動を推進します。

4 施策の実現に向けて市民は・・・

- 地域の文化、歴史を知り、次世代に伝える活動に積極的に参加します。
- 積極的に文化・芸術に触れ、自ら創造活動を行います。

5 関連する主な計画

- ◆ 多摩市立複合文化施設等大規模改修工事基本計画
- ◆ 旧北貝取小学校跡地施設活用基本方針